

## 或夏の日

俺は、ガンと一発頭をぶちのめされ  
くらくらとした夏の陽光に見つめられて  
背中から水にもぐるようにしてゆっくりと倒れた  
俺は倒れながら妙に落ち着いて考えたものだ  
（さて、もう立ち上がることはできまい  
あとはただすり減ってゆくのみだ）  
倒れた俺を、くらくらとした顔共がいくつもいくつも  
間の抜けた好奇の眼差しで覗き込んできて  
それがまたいかにも心配そうな表情だったから  
俺はますます気分悪くなってしまい  
再びぼんやりと考えた  
（さて、もう立ち上がることはできまい  
あとはただすり減ってゆくのみだ）

(1982.6.4)